

住まいにおける“だんらん”に関する研究  
 第2報 だんらん行為の内容及びその現状  
 日世大家政 ○沖田富美子 樋口真基子 昭世大家政 竹田喜美子

〔目的及び方法〕 第1報に準ずる。なお本報では、家族の集り部屋に対する考え方及びだんらん行為の役割などについての結果を報告する。

〔結果〕 夕食後の家族の集り度——家族が全員集る世帯は約6割、一部の人が集る世帯は約3割で、一応家族が集る世帯は9割である。家族の集る部屋及びその部屋での過ごし方——現在 ほとんどの家庭で一定の部屋が決められており“居間”と呼ばれる部屋が使われている。特に家族が一緒に何かをするために集っており 中でも“テレビを一緒に見る”(93.3%) “話や雑談をする”(68.3%) などの行為をしている。なお 家族が集っても各自好きなことをする家庭も約26%あり、その場合集っていても各自がそれぞれテレビを見たり、新聞・本などを読む行為がなされている。家族の集り部屋の役割——家族が集って話をしたり 同じ行為をする部屋であるという考え方が強く 家族間のコミュニケーションの場として大切な場であると考えられているが、現状では あまりコミュニケーションはなされていない。現在居間で行なわれている行為——“テレビを見る”“家族同志の会話をする”“お茶を飲んだり、おやつを食べる”“ごろ寝をする”(70%以上) が最も多く、また“アイロンをかける”“洗濯ものをたたむ”“軽い物をする”“来客にお茶の接待をする”(50%以上) などのいわゆるだんらん行為と考えられない家事労働行為も多く行なわれている。だんらん行為——上記の70%以上の世帯で行なわれている行為及び“ステレオ・ラジオを聞く”“食事をする”“ごろ寝をする”等の行為が だんらん行為と思われるが家事労働行為についてはだんらん行為とは意識されていない。